

「金サ法 5 年見直し懇談会」（第 1 回会合）

エンベデッドファイナンスの 現状と将来展望

株式会社Finatextホールディングス
取締役CFO 伊藤祐一郎

自己紹介



株式会社Finatextホールディングス 取締役CFO

2010年よりUBSの投資銀行本部においてIPO
やグローバルM&Aのアドバイザリー業務に従
事

2016年に株式会社Finatextに参画し取締役
CFOに就任

新規事業として、証券事業、保険事業、資金
事業の立上げをリード。2021年、グロース市
場へ上場

2025年 「実践 エンベデッドファイナンス
(金融財政事情研究会)」を出版

事業概要

当社は2014年にフィンテックソリューションから事業を開始

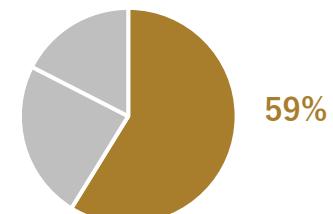
2016年にビッグデータ解析に進出したのち、現在の中核事業である金融インフラストラクチャを2018年より開始

現在は金融インフラストラクチャが過半を占める

金融インフラストラクチャ

- クラウドネイティブかつAPIベースの金融基幹システムを提供

- 証券インフラ BaaS
- 保険インフラ Inspire
- 資金インフラ Crest



1. 2024年度時点

ビッグデータ解析

- 機関投資家や公的機関に対して、オルタナティブデータを提供

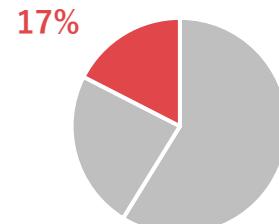
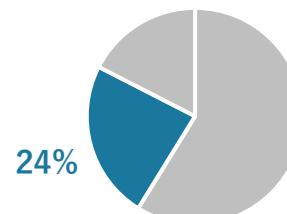
- POSやクレジットカードデータのクレンジングや解析に関する知見を保有

財務情報¹

- 売上高: 4,529百万円
- 成長率: +53%
- 営業利益: 470百万円
- 営業利益率: 10%

- 売上高: 1,827百万円
- 成長率: +40%
- 営業利益: 399百万円
- 営業利益率: 22%

- 売上高: 1,345百万円
- 成長率: +21%
- 営業利益: 140百万円
- 営業利益率: 10%



フィンテックソリューション

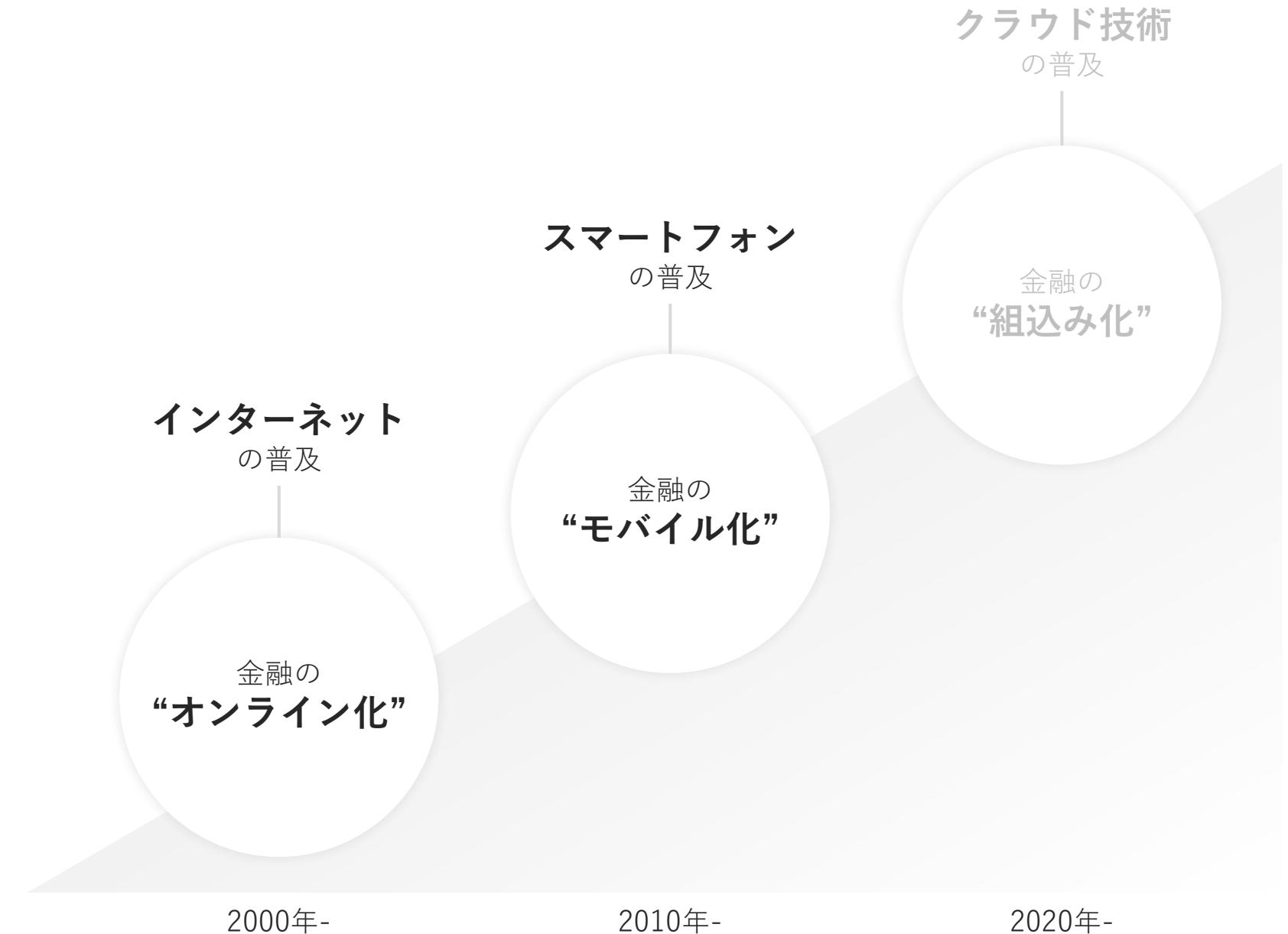
- 金融機関のDXニーズに対応したフロントエンドのアプリケーションの開発や汎用的な技術ソリューションを提供
- システム開発だけでなく、コンサルティングやマーケティング支援も行う

1. エンベデッド・ファイナンスと 金融サービス仲介業が注目される背景

金融業界の変化

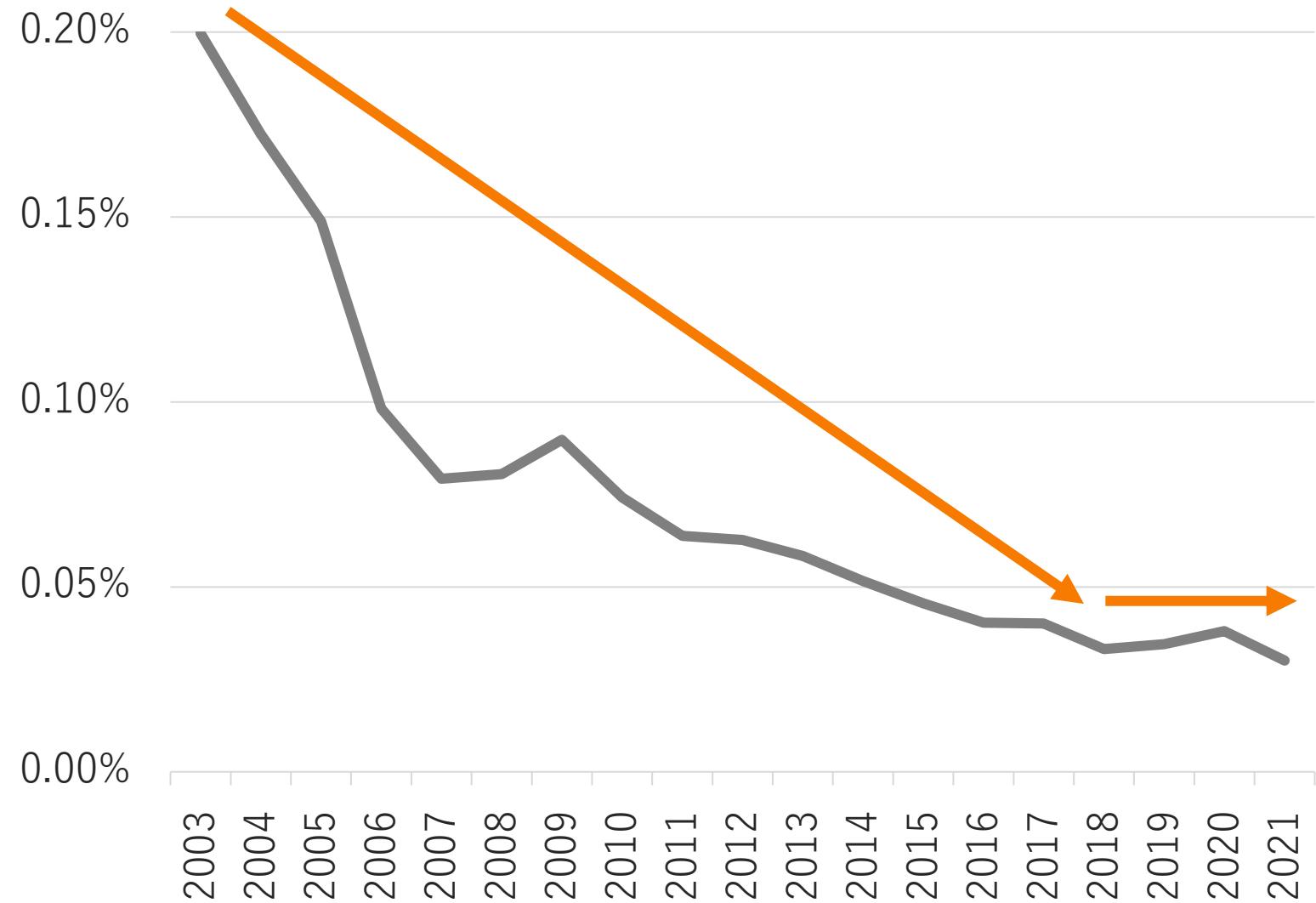
金融業界は2000年代に「オンライン化」によって、手数料は大幅に低下し、機能も飛躍的に向上

更に「モバイル化」により、利便性が向上したものの、技術革新によって誰もが高品質のサービスを提供できるようになった結果、価格/機能/利便性での差別化が困難に



例：証券委託手 数料率

証券における平均委託手
数料率は、2003年以降大
きく低下していたものの、
2018年頃からは下げ止
っている



出所：日本証券取引所「東証総合取引参加者決算概況」より作成

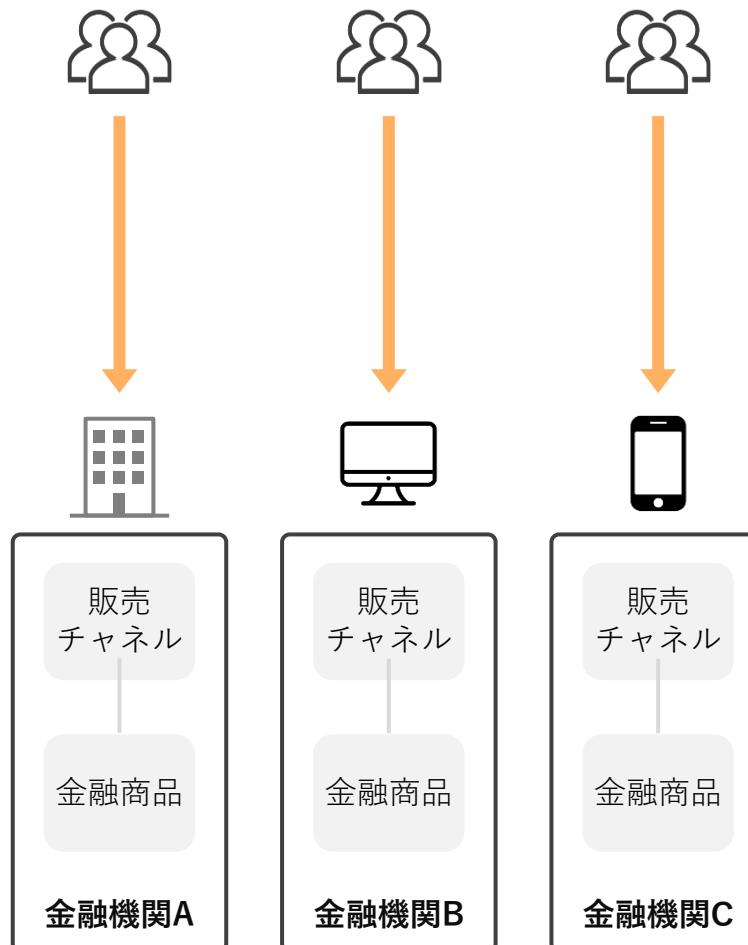
金融の“組込み化”

差別化が難しくなった結果、顧客を店舗やウェブサイトへ連れてくるための広告費が増大

そこで、顧客を自社の販売チャネルに連れてくるのではなく、**顧客に身近な事業者のサービスに金融商品を組込む**、新しい形の金融サービスが登場

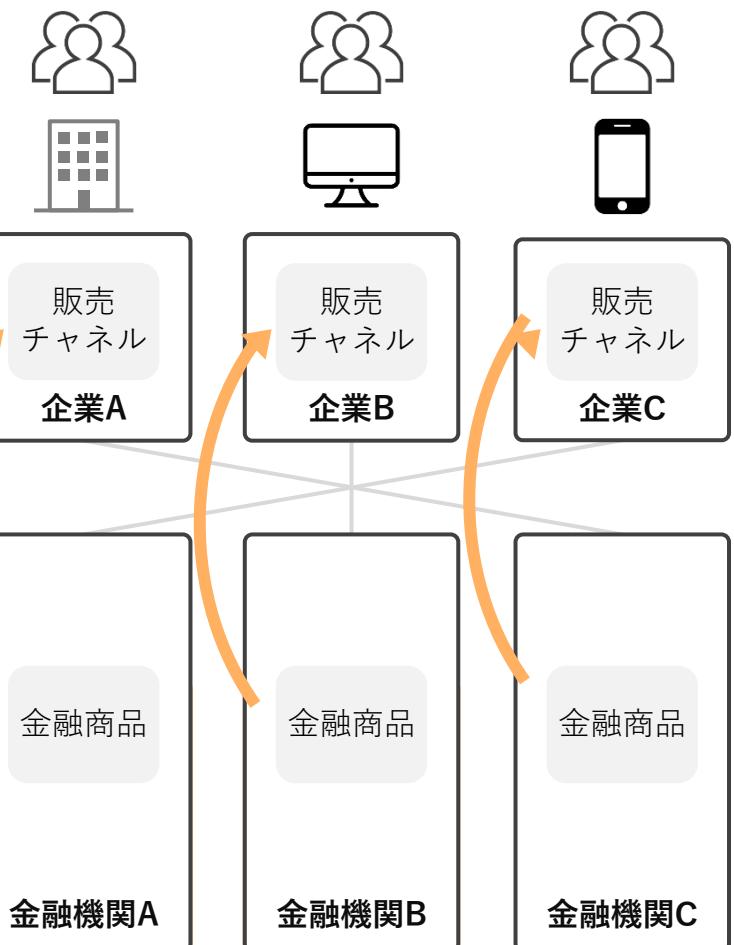
既存の金融業界

- 顧客を自社販売チャネルへ連れてくる



金融の“組込み化”

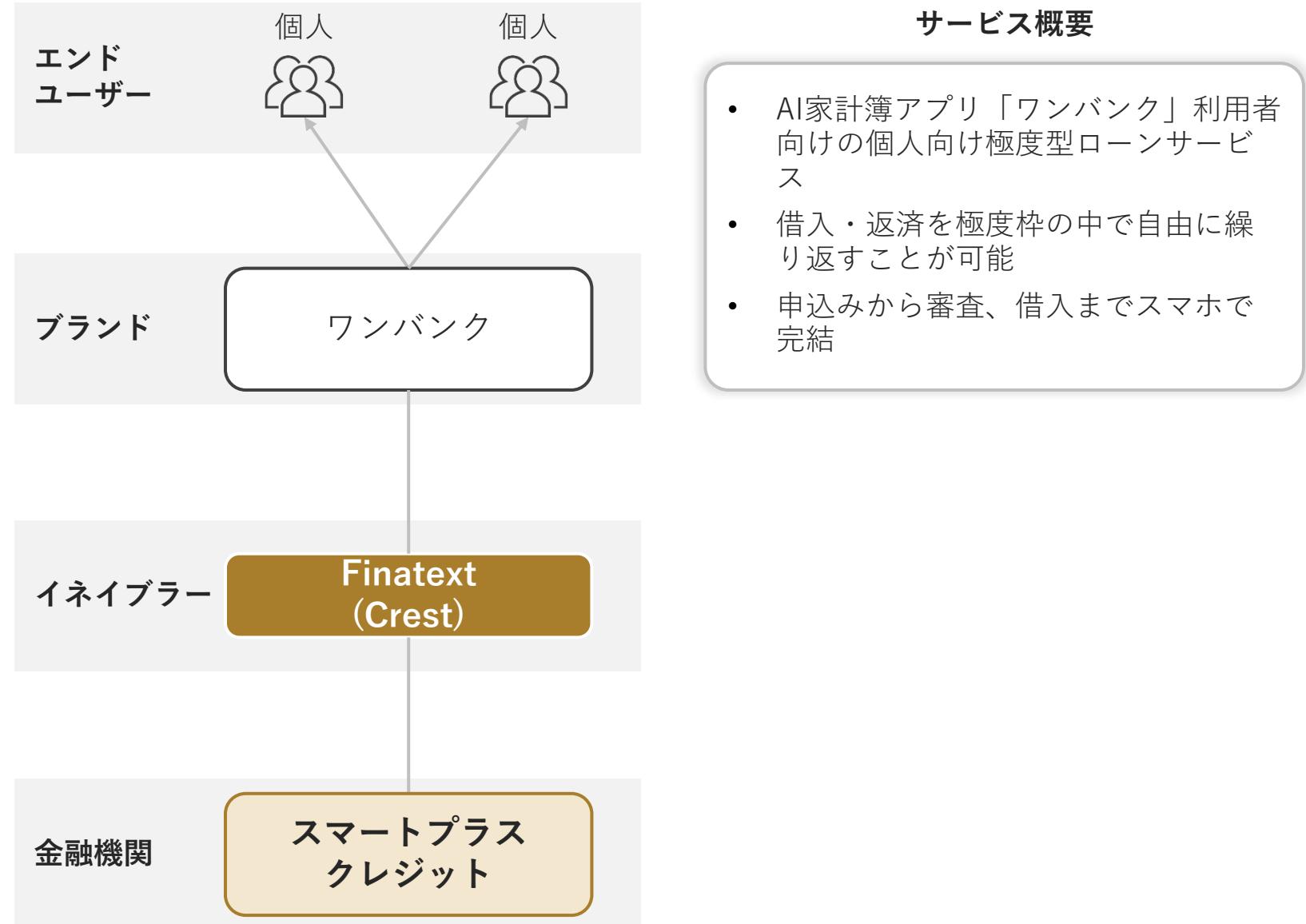
- 顧客が日常的に利用しているサービスに金融商品を組込む



事例①

スマートバンク社が提供するAI家計簿アプリ「ワンバンク」に個人向け極度型ローンを組み込み

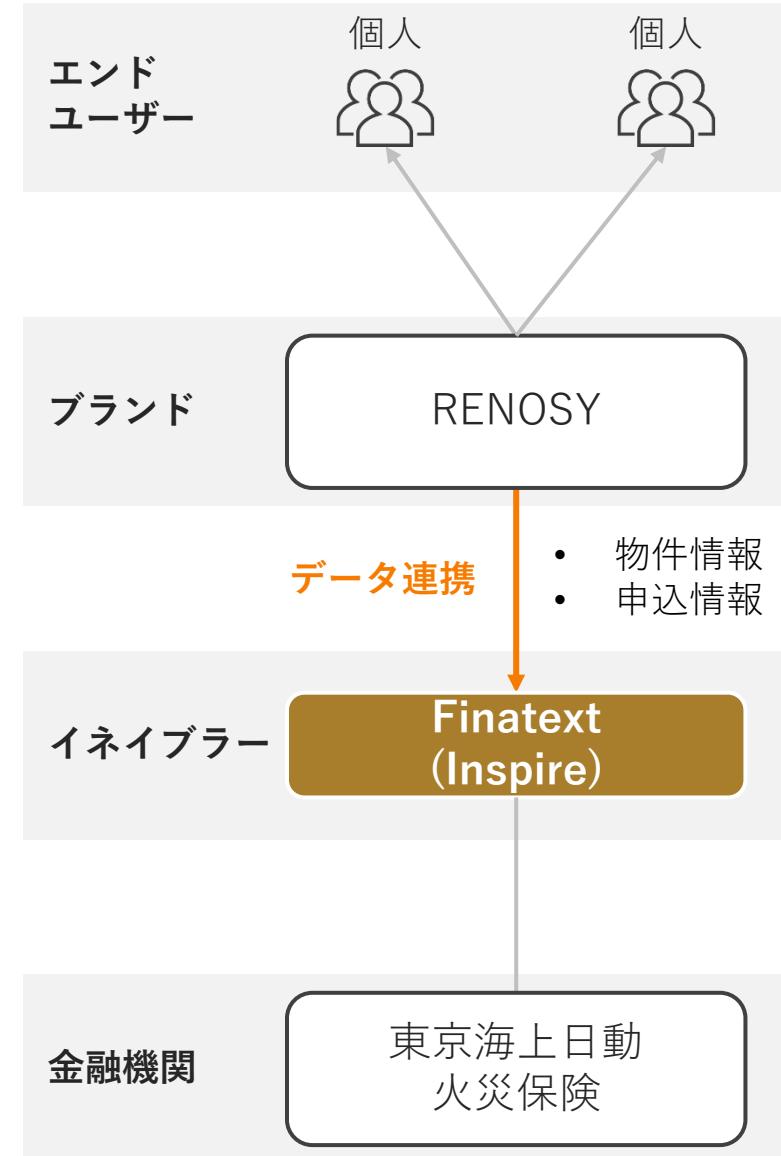
Finatextの資金クラウド基幹システム「Crest」を活用して、資金子会社のスマートプラスクレジットが貸付け



事例②

GA technologiesが運営する「RENO SY」で投資用不動産を購入したお客様向けに、東京海上の火災保険を提供

GA technologiesと東京海上は、Finatextの保険クラウド基幹システム「Inspire」を活用し、「RENO SY」のウェブサイトに組込み



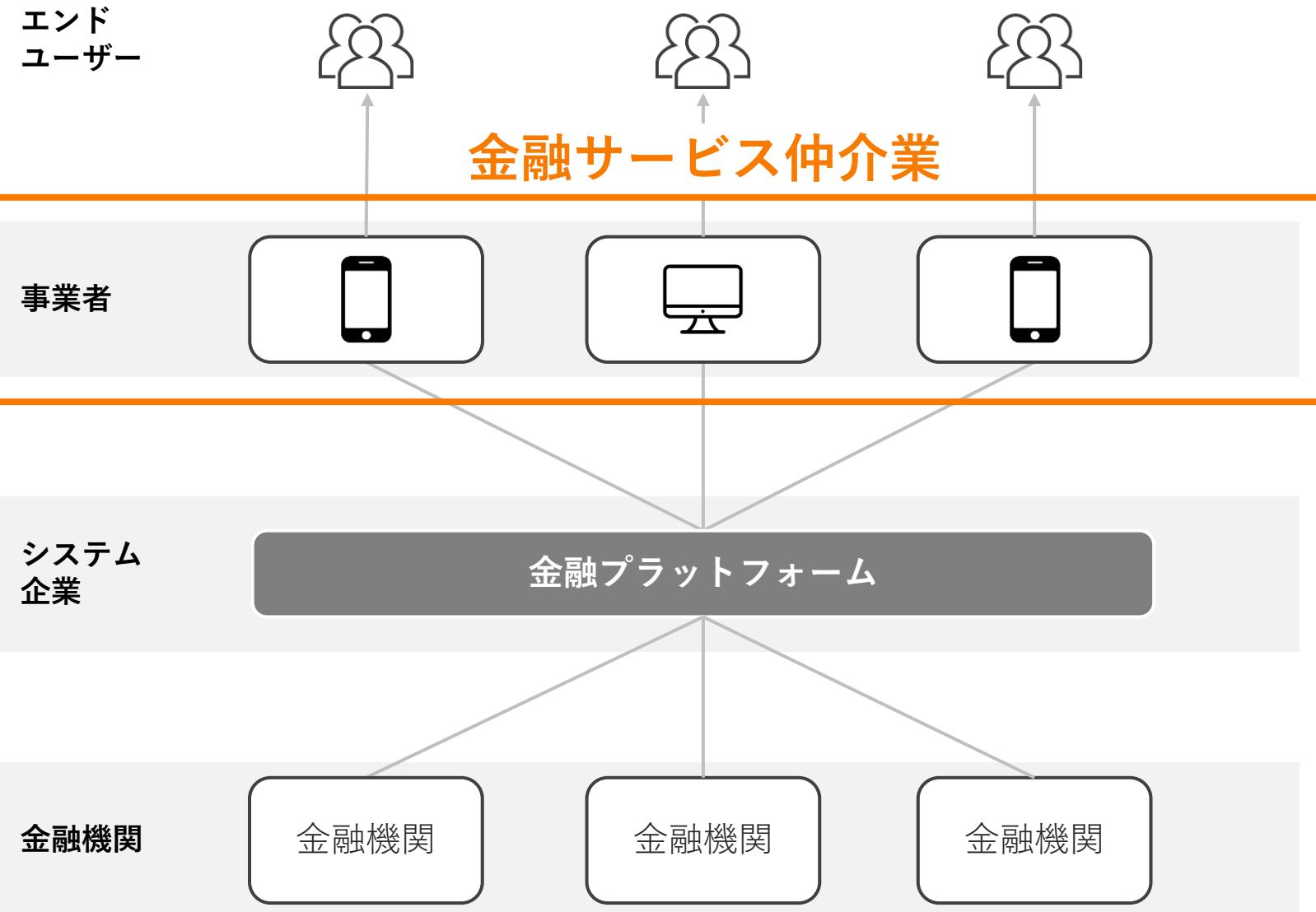
サービス概要

- GA technologiesが運営するネット不動産マーケットプレイス「RENO SY」で投資用不動産を購入したお客様向けにウェブサイト上で、簡単に火災保険に加入できる仕組みを開発
- 投資用不動産購入者向けの火災保険を組込型で提供するのは、国内の不動産及び保険業界として初¹

金融サービス仲介業の活用可能性

この座組みで事業者が金融サービスを提供していくには、「金融サービス仲介業」が活用しやすい

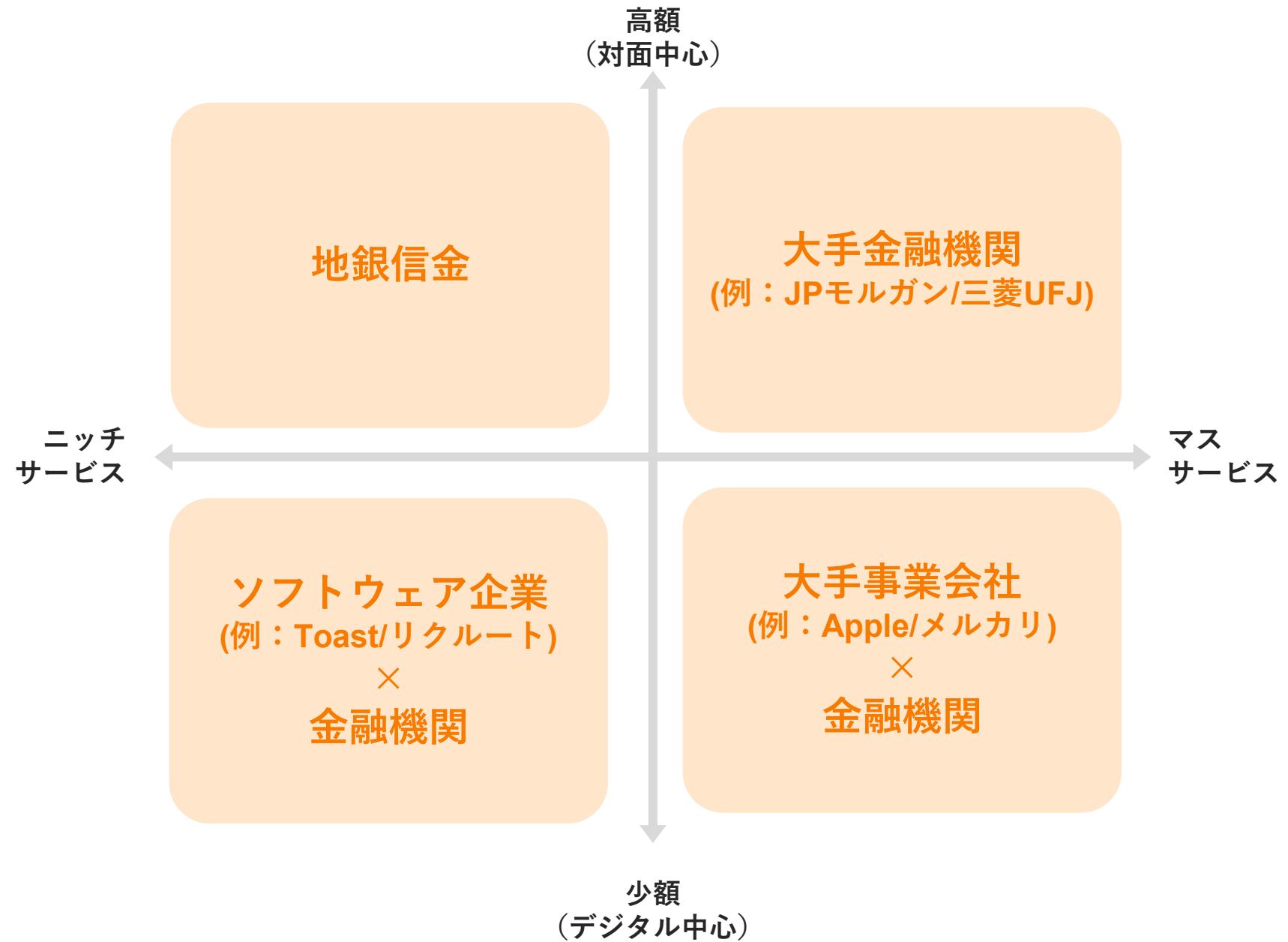
特に、「所属制ではない」ことは、事業を拡大しやすいことに加え、(現在アメリカで問題となっている) 法令遵守をめぐる責任分担の明確化にもつながる可能性



2. 金融業界の将来展望

今後の金融業界のすみ分け

中長期的には、金融サービスの提供者は、高額／少額、マス／ニッチで、がすみ分けられていくと考える

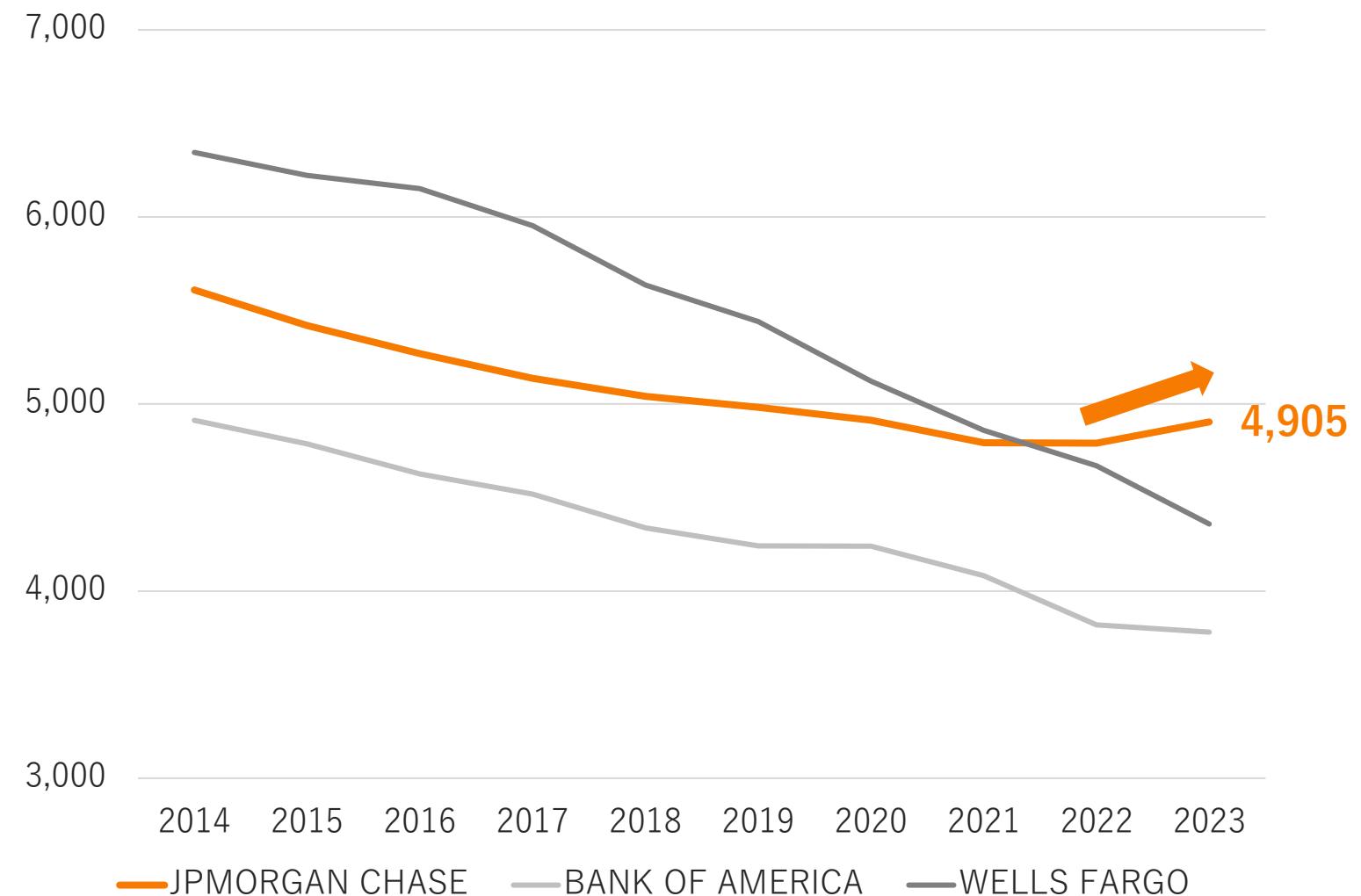


対面に回帰する
JPモルガン

JPモルガンは、個人向けアドバイスの拠点として支店を増やす戦略に変更

向こう3年で更に500店舗増やす方針を発表

主要米銀の支店数



出所：FRB

法人向けの「少額 × ニッチ」に注目

中小企業向けの業界特化型SaaSに、決済、ローン、保険を組み込むケースが増加

Toast

(レストラン業界)

- ・ サービス: レストランのPOSシステム
- ・ ローン: レストラン事業者向けに顧客のキャッシュフローデータを活用してワーキングキャピタルローンを提供

ServiceTitan

(住宅・商業サービス業界)

- ・ サービス: 配管/電気工事業者等向け業務管理SaaS
- ・ ローン: 配管/電気工事業者の顧客（一般消費者）向けの住宅修理・工事費用の分割払いを提供

Buildertrend

(建設業界)

- ・ サービス: 建設プロジェクト管理SaaS
- ・ ローン: 建設会社向けにプロジェクト遅延時のキャッシュフロー不足を補うための運転資金を提供

Flexport

(物流業界)

- ・ サービス: 国際貿易・物流業界向け貨物輸送プラットフォーム
- ・ ローン: 輸入業者向けに船積みの在庫及び物流コストへの融資

Mindbody

(フィットネス業界)

- ・ サービス: フィットネスジム、ヨガスタジオなどのウェルネス業界向けビジネス管理プラットフォーム
- ・ ローン: ジム・スパ事業者向けに売上債権の買取による運転資金提供

FINATEX

Reinvent Finance as a Service